



XRF V3 制限一覧



■商標について

XRF は、株式会社ユニリタの商標または登録商標です。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Java は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。その他、記載されている社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

目 次

1. 仕様上の制限.....	1
2. 動作上の制限.....	9
3. PDF 生成における ReportMission モードの制限.....	11

1. 仕様上の制限

- レコード間の参照関係で「参照不可」や「総計関数の制限」は、XRF Designerでの設定時にすべてチェックされません。
- テーブルに角丸等の設定はできません。角を丸くした別のオブジェクトを貼り付けることで、テーブルの角を丸く表現できます。
- フィールドマスクまたはデータマスクをページ全体に貼ると、プレビュー、印刷の際にページ中のオブジェクトが見かけ上表示されなくなります。
- 連続紙は縦方向に印刷されるため、新規フォーム作成時の用紙方向設定では、横向きを指定することができません。
- XRF Designerの設計において透過濃度を100%以外に設定しますと、印刷においてスプール量が大きくなり、印刷速度も遅くなります。
- 固定テキスト・ユーザテキストにおいてフォントの設定で太字を選択した場合、お使いのプリンタによっては文字サイズを大きくすると太字にならずに印刷されるケースがあります。
- プリンタ・ディスプレイの表示結果は、機種に依存するため、若干の誤差が発生する場合があります。
- WPQLエディタでテーブルを配置する際、同名のDB且つ同名のテーブルは複数配置することができません。
- 関数のAND、OR、NOT関数と、2項演算子の :AND:、:OR:、:NOT: を同じビルドで使用するとエラーが発生するケースがあります。エラーとなるのは、以下のようなケースです。

記号	ケース	記述例	使用可否
:AND:	論理演算関数の式に2項演算子	AND (true:AND:true,true:AND:true)	×
:OR:	論理演算関数の式に2項演算子	AND (true:OR:true,true:OR:true)	×
IF	IF関数の条件に2項演算子	IF(true:AND:true,"OK","NG")	×

- XRF Composerのページ数取得機能で、ページ数取得対象として指定できるPDFは、XRF Composerで生成したPDFに限ります。それ以外のPDFでもページ数取得が成功する場合がありますが動作保証するものではありません。
- XRF Readerは起動時にログインユーザごとに1つのポートを確保します。インストール後の初期状態ではポート番号「54432～54532」の範囲から未使用のポートを自動で割り当てて起動します。そのため、このポート番号の範囲が、他のアプリケーションが使用するポートと競合しないようにする必要があります。また、使用するポート番号に固定値を割り当てる設定も可能ですが、その場合でもそのポートが他のアプリケーションにより既に使用されていると、ポートを自動で割り当てて起動します。
なお、自動割り当て範囲でポートを確保できなかった場合、XRF Readerは起動エラーで終了します。

- フォームに機能が追加された場合、機能が追加されたバージョンとその以前のバージョンのアプリケーション間で非互換や注意事項が発生することがあります。フォームの機能追加に伴う互換情報については、表1の通りとなりますので確認の上、フォームの編集を行ってください。追加された機能の詳細については、他のマニュアルを参照してください。

表1 フォームの機能追加に伴う互換性について

バージョン	追加された機能	互換情報
3.7.2	グラフ機能が新しくなりました。	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム] XRF3.7.2以降でも扱うことができます。 ただし、使用可能なグラフタイプに変更はありませんが、各グラフタイプの詳細な表現については互換性はありません。詳しくは、『表3 V3.7.2のグラフ機能の更新に伴う互換性について』を参照してください。</p> <p>[下位バージョンの XRF アプリケーション] XRF3.7.2以降でグラフを設定したフォームを、下位バージョンの XRF アプリケーションで扱うことができます。 ただし、各グラフタイプの詳細な表現については互換性はありません。詳しくは、『表3 V3.7.2のグラフ機能の更新に伴う互換性について』を参照してください。</p>
3.6.9	次の関数が追加されました。 ・JPCBDATA	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム] XRF3.6.9以降でも扱うことができます。</p> <p>[下位バージョンの XRF アプリケーション] 『表2 関数の追加に伴う下位バージョンの XRF アプリケーションの互換性について』を参照してください。</p>
3.6.7	テキストの部分修飾	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム] XRF3.6.7以降でも扱うことができます。 なお、部分修飾の設定は無効として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Designer] テキストの部分修飾を有効に設定したフォームを下位バージョンの XRF Designer で編集した場合、エラーにはなりませんが、部分修飾の設定が捨てられ無効になります。</p> <p>[下位バージョンの XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer] テキストの部分修飾を有効に設定したフォームを使用した場合は、設定は無効として扱われ、部分修飾タグはそのままの文字として描画されます。</p>

バージョン	追加された機能	互換情報
3.6.7	テキストの禁則処理	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム]</p> <p>XRF3.6.7以降でも扱うことができます。</p> <p>なお、禁則処理の設定は無効として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Designer]</p> <p>テキストの禁則処理を有効に設定したフォームを下位バージョンの XRF Designer で編集した場合、エラーにはなりません。禁則処理の設定が捨てられ無効になります。</p> <p>[下位バージョンの XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer]</p> <p>テキストの禁則処理を有効に設定したフォームを使用した場合は、設定は無効として扱われます。</p>
3.6.6	複数フォームをまたがったページ番号および総ページ数の印字	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム]</p> <p>XRF3.6.6以降でも扱うことができます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Designer]</p> <p>下位バージョンの XRF Designer では、追加された「複数フォームをまたがったページ番号と総ページ番号のパターン文字 (%tp および%atp)」は、単なる文字として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer]</p> <p>追加された「複数フォームをまたがったページ番号と総ページ番号のパターン文字 (%tp および%atp)」を設定したフォームを使用した場合は、パターン文字がそのまま印字されます。</p>
3.6.5 Lv06	エリアの可視切替え	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム]</p> <p>XRF3.6.5Lv06以降でも扱うことができます。</p> <p>なお、エリアの書式種別は「指定なし」として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Designer]</p> <p>エリアの可視切替えを設定したフォームを下位バージョンの XRF Designer で編集した場合、エラーにはなりません。エリアの可視切替え設定は捨てられ無効になります。</p> <p>[下位バージョンの XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer]</p> <p>エリアの可視切替えを設定したフォームを使用した場合、機能は無効となり、エリアの書式種別は「指定なし」として扱われます。</p>

バージョン	追加された機能	互換情報
3.6.5 Lv06	明細レコードの出力方式 (明細出力方式)	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム]</p> <p>XRF3.6.5Lv06以降でも扱うことができます。</p> <p>なお、明細レコードの出力方式(明細出力方式)は規定値の「条件が一致した最初のレコードを出力する」として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Designer]</p> <p>明細レコードの出力方式(明細出力方式)を使用しているフォームを下位バージョンの XRF Designer で編集した場合、エラーにはなりません、設定が捨てられ無効になります。</p> <p>[下位バージョンの XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer]</p> <p>明細レコードの出力方式(明細出力方式)を設定したフォームを使用した場合、機能は無効となり、明細出力方式は「条件が一致した最初のレコードを出力する」として扱われます。</p>
3.6.0 Lv12	次の関数が追加されました。 ・ MDATE	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム]</p> <p>XRF3.6.0Lv12以降でも扱うことができます。</p> <p>[下位バージョンの XRF アプリケーション]</p> <p>『表 2 関数の追加に伴う下位バージョンの XRF アプリケーションの互換性について』を参照してください。</p>
3.6.0 Lv10	「0 の表示」オプション (データ型が数値のユーザフィールドの入力値がない場合に 0 を印字する。フォーム毎に設定。)	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム]</p> <p>XRF3.6.0Lv10以降でも扱うことができます。</p> <p>なお、オプションは「0 を表示する」として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Designer]</p> <p>「0 の表示」をしないように設定されたフォームを下位バージョンの XRF Designer で編集した場合、エラーにはありませんが、設定が捨てられ「0 を表示する」として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer]</p> <p>「0 の表示」をしないように設定されたフォームを使用した場合でも、指定は無効となり、データ型が数値のユーザフィールドの入力値がない場合に 0 が表示されます。</p>

バージョン	追加された機能	互換情報
3.6.0 Lv09	<p>2 バイト文字（全角文字）の文字間隔オプション （テキスト文字間を 2 バイト文字の印字ではオブジェクト設定値の 2 倍で描画する。フォーム毎に設定。）</p>	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム] XRF3.6.0Lv09 以降でも扱うことができます。 なお、「2 バイト文字（全角文字）の文字間隔を 2 倍に描画する」は無効として扱われます。</p> <p>[下位バージョンの XRF Designer] 「2 バイト文字（全角文字）の文字間隔を 2 倍に描画する」を有効に設定されたフォームを下位バージョンの XRF Designer で編集した場合、エラーにはなりません、設定が捨てられ無効になります。</p> <p>[下位バージョンの XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer] 「2 バイト文字（全角文字）の文字間隔を 2 倍に描画する」を有効にしたフォームを使用した場合は、設定は無効として扱われます。</p>
3.6.0Lv08	<p>次の関数が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SUBSTRINGB 	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム] XRF3.6.0Lv08 以降でも扱うことができます。</p> <p>[下位バージョンの XRF アプリケーション] 『表 2 関数の追加に伴う下位バージョンの XRF アプリケーションの互換性について』を参照してください。</p>
3.5.0	<p>次の関数が追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ LEN ・ FIND ・ REPLACE ・ SPACE ・ REPEATE ・ TRIM ・ AND ・ OR ・ NOT ・ DTEXT ・ CDATE 	<p>[下位バージョンで作成されたフォーム] XRF3.5.0 以降でも扱うことができます。</p> <p>[下位バージョンの XRF アプリケーション] 『表 2 関数の追加に伴う下位バージョンの XRF アプリケーションの互換性について』を参照してください。</p>

表 2 関数の追加に伴う下位バージョンの XRF アプリケーションの互換性について

下位バージョンの XRF アプリケーション	互換情報
XRF Designer	<p>機能追加された関数を使用したフォームを下位バージョンの XRF Designer で編集し、その関数を使用しているビルド式を修正する際に OK ボタンを押すとエラーメッセージが表示され更新できません。</p> <p>ビルド式を修正せずに編集中のフォームを保存する場合は、機能追加された関数は保持されたまま保存されます。</p>
XRF Composer / XRF Reader / XRF Viewer	<p>下位バージョンの XRF アプリケーションで、追加された関数を使用したフォームを使用した場合は、関数の演算処理でエラーが発生し、表示や印刷、PDF 生成などが行えません。</p>

表 3 V3.7.2 のグラフ機能の更新に伴う互換性について

グラフタイプ	互換情報
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの凡例のタイトルが表示されなくなりました。 ・グラフ領域の枠線のスタイルが「直線」のみになりました ・系列ごとに表示非表示を選択することができなくなりました。 ・系列ごとに「凡例内に表示」を切り替えることができなくなりました。 ・「開始ポイント」「終了ポイント」の設定がなくなりました。 ・「塗りつぶしスタイル」が設定できなくなりました。 ・X 軸の「対数」の設定項目がなくなりました。
プロットグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・「included」の設定がなくなりました。
棒グラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・「XY 入れ替え」の設定がなくなりました。
積層型エリアグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアの枠線が表示されなくなりました。
円グラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・表示レイアウトが変更されました。 ・「しきい値」の設定がなくなりました。
HiLo チャート	<ul style="list-style-type: none"> ・X 軸が数値から日付に変更されました。
HiLoOpenClose チャート	<ul style="list-style-type: none"> ・X 軸が数値から日付に変更されました。 ・「始値」「終値」の表示非表示を切り替えることができなくなりました。 ・「完全な幅で表示」の設定がなくなりました。
ローソク足	<ul style="list-style-type: none"> ・X 軸が数値から日付に変更されました。 ・「応用型」の設定がなくなりました。

- V3.6.10 Lv02におけるXRF DesignerのWindows 10対応では、帳票リソースファイル等の保存場所が変更されているため、V3.6.10 Lv02より前のバージョン(V3.6.10 Lv02を含まない)からのバージョンアップでは、対象ファイルの移行を実施していただく必要があります。
詳しくはXRF Designerのインストールガイドを参照してください。
- V3.6.8におけるXRF Readerのマルチログイン対応では、XRF Readerの設定ファイルの保存場所が変更されているため、V3.6.8より前のバージョン(V3.6.8を含まない)からのバージョンアップでは、対象ファイルの移行を実施していただく必要があります。
詳しくはXRF Readerのインストールガイドを参照してください。
- XRF ComposerのPDF生成機能において文字の縁取りを使用すると、フォントのライセンスによってはライセンスに抵触する恐れがあります。ライセンスの必要なフォントの書き込みは使用者の責任となります。
なお、PDF生成機能におけるフォントの縁取りはテキストフィールドの1バイトフォント、2バイトフォントの両方がフォント埋め込みをしているときに有効となります。
- V3.8.0において製品が内包するJavaをJava8からJava11へ入れ替えており、その影響で日付フォーマットを指定した場合の表示が変わります。例えば、1970年2月を指定した場合、V3.8.0より前のバージョンでは「2-1970」という表示でしたが、V3.8.0では「2月-1970」という表示に変わりました。
- V3.8.0において製品が内包するJavaをJava8からJava11へ入れ替えており、その影響で一部のフォントで太字・斜体の字体が変わります。太字はより太く、斜体は傾きがやや強く、太字斜体はメリハリが強くなります。

項目	説明
対象となるフォント	フォントファイルにて各スタイル用のフォント情報を持たないフォント
影響のある標準フォント	ゴシック、明朝、OCR-B
影響のない標準フォント	Arial、Courier New、Times New Roman
標準フォント以外で影響のあるフォント	MSP ゴシック、MSP 明朝

- V3.8.0において製品が内包するJavaをJava8からJava11へ入れ替えており、その影響で一部のプロポーショナルフォントで折り返し位置等が変わります。

項目	説明
対象となるフォント	プロポーショナルフォント、かつ、フォントファイルにて各スタイル用のフォント情報を持たないフォント ただし、スタイルに太字または太字斜体を選択した場合のみ
影響のある標準フォント	なし
影響のない標準フォント	Arial、Courier New、Times New Roman、ゴシック、明朝、OCRB
標準フォント以外で影響のあるフォント	MSP ゴシック、MSP 明朝

- V3.8.0においてXRF Composerを実行するJavaをJava8からJava11へ変更した場合、PDFの印字において、縁取りの設定をした場合に、一部のフォントで太字・斜体の字体が変わります。なお、縁取りをしない場合、もしくはフォームで縁取りが指定されていた場合でも、XRFのPDF生成においてフォント埋め込みを有効にしない場合は、Javaのバージョンアップによる印字差異はありません。

項目	説明
対象となるフォント	フォントファイルにて各スタイル用のフォント情報を持たないフォント
影響のある標準フォント	ゴシック、明朝、OCRB
影響のない標準フォント	Arial、Courier New、Times New Roman
標準フォント以外で影響のあるフォント	MSP ゴシック、MSP 明朝

2. 動作上の制限

- E0291 XRF Designer で多角形の頂点の数を変更しても、編集対象頂点数が即座には連動しません。
- E0326 XRF Reader で XML 出力を Shift_JIS で実行すると、外字の部分が文字化けします。
- E0352 XRF Reader による複数部印刷を Acrobat Distiller に対して行うと、同じファイル名に上書きして PDF を作成します。XRF Reader から Acrobat Distiller で PDF を作成する場合は、1 ファイルずつ PDF を作成してください。
- E0353 XRF Reader で環境変数の path の設定で XRF Reader¥bin に path を通して XrfPrint.exe を別のディレクトリでプリントするファイル名を指定して実行しても Reader¥bin の中のファイル対してのみ実行されます。
- E0589 XRF Designer でトレースページにある非共有オブジェクトと同じ名前を、トップページの非共有オブジェクトに付けるとエラーになります。
- E0598 XRF Viewer でユーザイメージのパスを [../data/image] 以外の相対パスで指定しても、[../data/image] を参照します。
- E0716 PDF と XRF ではグラフの中のレイアウトが違う場合があります。(領域の大きさ、グラフ線の角度等)
- E0828 XRF Viewer、XRF Reader で印刷したときに画像の端に線が入ってしまう PNG があります。
- E0832 XRF Designer でカンマとダブルクォートを両方含むテキストがあると、オブジェクト一覧の出力内容が不正になってしまう場合があります。
- E0833 XRF Designer でグリッドに合わせて、ページの上または左にはみ出すようにオブジェクトを移動すると、グリッドに合わなくなります。
- F1004 XRF Designer でマスクをドラッグして、ページ領域外に完全に出してしまうと、ページ領域内に戻せなくなります。
- F1055 XRF Designer でいくつかのオブジェクトをグループ化して、コピー・ペーストを BaseArea 表示領域外に行くと画面から見えなくなってしまう場合があります。
- F1064 XRF Designer レコードのプロパティから高さを変えると表示が不正になります。
- F1065 XRF Composer の PDF 生成はユーザフィールドおよび固定テキストでのみ、JISX0213 規格の文字を描画できます。
- G2001 テキストの禁則処理において、一部文字では対応していないものがあります。
例：数学記号の大なり・小なり (<、<、>等)、半角句読点、!! (U+203C 感嘆符二つ)
- G2002 テキストの禁則処理において、サロゲートペアが連続した場合に正常に動作しない場合があります。
- G2003 入力データの XML にサロゲートペアを含むと XRF Composer、XRF Reader および XRF Viewer でエラーになる場合があります。この問題は、サロゲートペアを XML 文字参照で指定することで回避できます。また、XRF Composer、XRF Reader、XRF Viewer の動作モードを一時ファイルモードで動作させた場合にはこの問題は発生しません。
- G2004 XRF Designer の動作環境ダイアログで登録した「固定テキスト」「ユーザフィールド」のフォントスタイルの情報が、設定ファイル「nfhconfig.xml」に正常に登録できない障害があります。
- G2005 XRF Reader の環境設定ダイアログのジョブファイル印刷設定画面において、[XRF ファイル

時解凍先]と[ログレポート出力先]の参照ボタンから設定した値が、それぞれ逆のフィールドに設定されてしまう障害があります。この障害は、参照ボタンから設定するのではなく、直接入力することで回避できます。

3. PDF 生成における ReportMission モードの制限

- ページ毎のデータサイズが500KBを超えるページを1ページでも含むPDFファイルは、ReportMissionに取り込むことができません。
- 図形の塗りつぶし効果のグラデーションおよびパターン設定は、ReportMissionで取り込むことができません。(図形自体は取り込まれます)
- ReportMissionではデータ中の結合文字を取り込むことができません。
ただし、XRF Composerではデータ中の結合文字を正規化 (Unicode正規化) したうえでPDFを生成しているため、この正規化が可能な結合文字はReportMissionに取り込めるようになっています。なお、正規化が可能な結合文字とは、下記例のように結合した結果の文字が、他の文字として存在する場合があります。
例) かゝ (「か」と「濁点」) → が
あゝ (「あ」と「濁点」) → 正規化できません
- データフィールドの対話設定が有効になっているデータフィールドは、ReportMissionで取り込むことができません。
- Times New Roman フォントを使用し、かつ文字倍率の100%以外に設定された場合、ReportMissionでは表示される文字の間隔が正しく表示されません。
- 文字飾りのアウトラインを指定した場合、XRF Composerは文字ではなく図形として出力しているためReportMissionの検索機能の対象になりません。

XRF V3 制限一覧

2021年10月 第12版

発行：株式会社ユニリタ

〒108-6029 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟

Copyright © 2021 株式会社ユニリタ

本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、株式会社ユニリタから文書による許諾を受けずに、いかなる方法においても複写・複製・転載することは禁じられています。

改良のため、製品の仕様やデザインは予告なしに変更される場合がありますのでご了承ください。